



昭和46年12月、札幌オリンピックを間近に控え、全国4番目の地下鉄が開業（大通駅）

国内4番目の地下鉄開業
そして、経営危機へ



地下鉄 そして札幌オリンピック直前の昭和四十六年に地下鉄南北線が開業し、大量輸送時代が幕を開けたんだよ。東西線が開業した昭和五十一年には、地下鉄の輸送人員が市営交通全体の半数を超えたんだ。

路面電車 いいなあ、地下鉄さんは。僕の輸送人員は、昭和三十九年を境に急激に減ってしまったんだ。車が増えて

スムーズな運行が難しくなったのが大きな原因だね。最も多い時で八路線あったのが次々と廃止され、昭和四十九年には現在の一路線だけになってしまっただけね。

市バス 僕は地下鉄の駅に接続するように再編されたんだ。

交通局では、平成四年から

その建設に伴う負担や人件費の増加によって、経営危機を迎えたんだ。そこで…

経営健全化に向けたこれまでの取り組み

経営健全化策と経営健全化計画回復策

	経営健全化策	経営健全化計画回復策
内部効率化	職員880人削減 勤務時間、乗務時分の延長 業務の委託化、非常勤化 機構、定数の縮小 各種手当類の廃止	職員720人削減 機構、定数の縮小 委託化、非常勤化の拡大 手当の廃止 駅業務の委託
増収およびサービス向上策	1日乗車券の発売 共通ウィズユーカードの発売 資産の有効活用 大規模公共施設などの配置	地下鉄の始発・終発時刻の見直し 資産の有効活用
事業規模の見直し		バス路線の一部民間移譲
一般会計(税金)からの補助	705億円	280億円

これまでの延長ではない
新たな取り組みの必要性
路面電車 これだけ経営健全化のために取り組んできて、一定の成果を挙げはしたものの、残念ながら経営状況の改善には至っていないんだよ。
市バス これまでの取り組みを続けるだけでは、もう解決できないということだね。
地下鉄 札幌の街の成長とともに歩んできた市営交通だけ



上表のほかにも、地下鉄昼間割引カード(写真)の発売や観光バスの廃止を実施しています

十三年度までを計画期間とする「経営健全化策」を策定し、人件費をはじめとする費用の削減などを行ってきました。しかし、社会経済状況の急激な変化でその達成が難しい状況になったため、平成十一年度から十五年度までを計画期間とする「経営健全化計画回復策」を策定し、さらなる効率化に取り組んできました。

ど、現状がこれでは、とても悲しい気分になってしまっただけね。
路面電車 確かにそうだね。ただ、一方では、開業当時と今とではまちづくりの考え方も変わってきているんだ。公共交通は公益性が高い」という理由で、行政が運営しなければならぬ」という発想が今の社会ではすべての市民に支持されるとは限らないね。
市バス 民営バスは、これまでも地下鉄との乗り継ぎをはじめ各種制度の共通化を図りながら、市営交通と連携して公共交通網を築いてきたんだ。公共交通の分野でも、行政が本分に担うべきものは何かを考え直す時期に来ているのかもしれないね。
地下鉄 でも、地下鉄は、多くの市民の要望でせっかく建設したのだから、もつと利用してほしいなあ。いずれにしても市民の皆さんに大きな負担をいただいているわけだから、これまで以上に経営を効率化する努力も欠かせないのもちろんだね。
こうした視点を踏まえて、札幌市では、昨年末に交通事業改革プランを作り、新たな取り組みを始めています。その内容は、次のページで紹介しています。